

## マンガにおける女性文末詞の使用について

—使用場面に注目して—

北代朋子  
(2016. 11. 5)

現代の若い世代の女性が「～よ」や「～わ」という、いわゆる「女ことば」の文末詞を使用することは、近年の現実の世界では少なくなっている。それにも関わらず、現代の日本のドラマやマンガといった、ヴァーチャルな世界に登場する人物たちは、依然として女性文末詞の使用を保持している。水本他(2006)は、女性文末詞の使用形と不使用形を示した「二項対立表」に基づき、現代の若い女性の会話と、ドラマの中の若い女性登場人物の会話に出現する女性文末詞数を比較した。その結果、実際の会話よりもドラマの会話において女性文末詞が多用されていることが明らかになった。そしてさらに水本他(2006)では、ドラマの登場人物をその女性文末詞使用率により 3 種に分類し、中でも「時々使用型」の人物が特定の場面において女性文末詞使用に転じることを明らかにした。

本研究は、マンガ作品を分析対象として、主に「時々使用型」の人物が女性文末詞にスイッチする場面から、現実には使われることの少なくなった女性文末詞がどのような効果をもってマンガというヴァーチャル世界で使用されているのかを明らかにするものである。そこで、「時々使用型」の特徴をもつとされる人物が登場するマンガ作品(連載開始年はいずれも 2000 年代)を選定し、「二項対立表」に基づき登場人物の使用する女性文末詞を分類し、その使用場面について検討を行った。その結果、水本他(2006)で指摘されるように、「主張度の強い場面」での使用が認められた。また、「心内発話」と「対人発話」に分けて数え上げると、登場人物によって女性文末詞使用形と不使用形でそれぞれ数に偏りがあるケースが存在することが明らかとなった。

(高知大学大学院生)

## 否定表現における「あまり」の考察

—初級日本語教科書の例文を通して—

洪 忠婷

(2016. 11. 5)

本研究では、初級日本語教科書で使用されている「あまり」が、どのような意味・用法、構文で使用されているかを調査した。「あまり」は否定構文にも肯定構文にも使われる副詞であるが、本研究では否定表現に現れる「あまり」について考察する。

「あまり」はほとんどの初級日本語教科書で導入される副詞である。本研究では、近年の日本語教科書の中から12種(20冊)を選定し、これらの教科書から「あまり」を抜き出し、否定構文に現れる「あまり」を分析・考察した。

本研究では、まず「あまり」の意味・用法を、「程度・量・頻度」に関わる点に分けて考察した。例文を分析した結果、教科書における「あまり」は、形容詞導入の段階か、頻度や量の概念と結びつきやすい動詞の動詞文で初出することがわかった。次に、「あまり」が形容詞と共起する場合には、尺度を表す形容詞述語と共起する関係について考察した。教科書における「あまり」は、正方向(無標)の尺度を表す形容詞述語と共起する例が多いことがわかる。一方、「あまり」は、負方向(有標)の尺度を表す形容詞述語とも共起できる。この場合には、「あまり」は弱否定型の用法ではなく、肯定表現における過度型の用法である。また、「あまり」が動詞と共起する場合には、構文的には、動作主は人間と物事によって分類した。これらの例文には、「なかなか」と言い換えられるものがあることが確認された。

今回の調査では、教科書の中で使用されている「あまり」の用例を収集し、その意味用法と文法的共起関係について明らかにした。初級教科書という性質上、例文が学習者にとってわかりやすい反面、用法が限定されていたり、日本語として自然さに欠けていることも考えられる。しかし、それも含めて、外国人日本語学習者に対する副詞の指導方法を考えるための資料となると思われる。

(拓殖大学大学院生)

「～ておく」の用法に関する研究  
— 「予防」という用法と五段階拡張説 —

徐 梓競  
(2016. 11. 5)

日本語教育における初級文型である「～ておく」は数多くの用法を持つ。しかし、この「～ておく」を扱っている日本語教科書 16 冊を見ると、「準備」という用法のみを扱っているものが 8 冊にのぼり、その他の用法を扱っているものも、「放置」を挙げているものは 4 冊、「一時的処置 (措置)」を挙げているものは 4 冊で、この 3 つを挙げているものは『みんなの日本語』のみである。なお、先行研究を見ると、この他に「現状維持」、「終結的宣言」などが挙げられる。しかし、次のような用例は、上のどの用法にもあてはまらない。

①忘れないようにメモしておく。

②玄関ドアを開ける時、ドアガードをかけておくと、万一無理やりドアを開けようとされても、侵入を防ぐことができます。

これらの用例を見ると、上に挙げた、「準備」「放置」「一時的処置 (措置)」「現状維持」「終結的宣言」という説明では筆者のような外国人日本語学習者には理解できない。また、「後あとの必要に備えて (を想定して) 前もってあることをする」(『新明解 第七版』) といった説明はすでにその意味を知っているネイティブ・スピーカーにはよいかもしれないが、外国人にとっては具体的なイメージはつかめない。そこで、筆者は「予防」という具体的な用法を考えた。さらに、この「予防」という用法が「～ておく」という文型の中で、どのように位置づけられるのかを筆者が考えた「～ておく」の五段階の意味拡張から明らかにする。この「～ておく」の五段階の意味拡張とは、根底に「目的」、「行為 (不作為を含む)」、「(行為の結果の) 維持」という三要素があり、これらの三要素から、それぞれを焦点化し、消去することによって、第一の用法から、第二、第三、第四、第五への五段階の意味拡張をすることによって個々の用法が出現するというものである。

(拓殖大学大学院生)

## 保育者養成課程における日本語教育の重要性

—外国籍園児を対象にした保育内容「言葉」に焦点をあてて—

谷口征子

(2016. 11. 5)

子どもの生活環境や保護者の子育て環境が多様化している今日において、保育所をはじめとする幼稚園や認定こども園が果たす役割は高い。保育者は多様化する環境にある子どもや保護者のニーズに合わせた保育が求められている。保育に関する諸問題は様々あり大きな社会問題となっているが、本発表においては外国に何らかのルーツをもつ子どもたち（保護者が外国籍、または保護者のどちらかが日本国籍ではあるが日本語能力を養う環境が十分ではない状態にあること。以下、「外国籍園児」）が増えることにより、保育者が抱える諸問題について明らかにしていきたい。

さて、保育士資格、幼稚園教諭免許を取得するためには「教育課程及び指導法に関する科目」を履修しなければならない。このためのカリキュラムおよびシラバスはあくまでも日本語が母語である園児を対象にしており、外国籍園児を視野に入れたものではない。そこで、保育者養成教育科目の1つである「言語表現」の授業において外国籍園児を対象にした言語活動について取り組んだ。言語の専門家ではない保育者を目指す学生にとって、第二言語に関する文法論や語彙論といった理論よりも教授法について学んだ方が実践に役立つと考え、アクティブラーニングを取り入れた次のような活動を行った。①外国籍園児に言葉を教えるための教材作成②外国籍園児のための話し言葉を重視したコミュニケーション活動の指導法③日本人の園児が外国籍園児とうまく付き合っていけるような多文化共生のための指導法④外国籍園児の保護者とコミュニケーションを図るための活動事例の紹介。本実践を通し、外国籍園児を視野に入れたカリキュラムとシラバスの改定を今後行っていきたいと考えている。

(小田原短期大学)

## 「やさしい日本語」をベースにした防災士育成

—防災弱者から地域リーダーへ—

公文素子

(2016. 11. 05)

1995 年の阪神淡路大震災をきっかけに「やさしい日本語」は生まれ、四半世紀を迎えるに至った。その間に「やさしい日本語」は各県や市町村の防災課，国際交流協会，病院や市役所，その他日本語を必要とする児童・生徒のいる学校等で広く活用されている。

しかし，専門家と一部関係者以外には，まだあまり浸透していない様に見受けられる。その原因として以下の 4 点がピックアップできる。

- 1 「やさしい日本語」は，防災時や特殊な場合にのみ必要である。
- 2 定住外国人を中心とした外国人のためのものである。
- 3 N4 レベルの日本語は，「外国人なら誰でも」習得できる。
- 4 「やさしい日本語」は易しいのだから，日本人にとっては，「いつでも・どこでも・だれでも」使用できると思い込んでいる。

これらの誤解や思い込みが原因で一般に浸透せず，25 年経った現在でも「やさしい日本語」は，いまだ専門家や一部関係者にしか理解されていないのが現状といえる。

以上 4 点を包括的，かつ相補的に改善・充実させる一方法として，「災害弱者」という言葉からもわかるように，これまで守ってもらう立場にあった外国人を地域リーダーとして活躍してもらうために外国人防災士育成を始めた。この作業には，日本人防災士・大学生・外国人（インドネシア・中国・韓国）が参加し，日本人が考える一方的な「やさしい日本語」にならないよう，様々なレベルの日本語力を持った外国人からも情報を収集し，外国人防災士育成に役立てている。本発表では，「やさしい日本語」を通して，外国人の災害弱者からの脱皮と，地域に密着した外国人防災士育成について言及するものである。

(高知大学)

## 留学生の「送り仮名の付け方」の特徴

—送り仮名調査の誤答分析から—

井上次夫  
(2016. 11. 5)

**1. 背景と目的:** 1973 年内閣告示の現行「送り仮名の付け方」には 40 年以上の歴史があり、送り仮名は国語科教育のみならず日本語教育においても指導が必要な事項である。しかし、漢字指導、語彙指導に重点が置かれるあまりか、送り仮名の付け方が問題視されることは多くない。そこで、本発表では、はたして留学生の送り仮名の付け方の実態はどのようなものであるか、また留学生の送り仮名の付け方の特徴はどのようなものであるかを誤答分析から明らかにすることを目的とする。

**2. 方法と内容・結果:** 井上 (2003) は留学生と日本人の送り仮名の付け方テストを実施し、A 日本人・留学生共に易しい送り仮名、B 共に難しい送り仮名、C 日本人に易しく留学生に難しい送り仮名、D 留学生に易しく日本人に難しい語を調査し「送り仮名の付け方」に基づき分析したが、その際、調査語には留学生にとって未習語や非理解語が多く含まれていたことを課題として挙げた。このため、本発表では調査語を改善して高校生 686 人、高専生 217 人、留学生 7 人を対象に行った調査結果について分析を行う。次は結果の一部。

[A=戦う, 比べる B=確かめる, 冷やかす C=慣らす, 連なる D=断る, 快い]

**3. 考察と課題:** 通常、送り仮名知識と能力は留学生よりも日本人が高いと想定される。このため、上記 A・B については「送り仮名の付け方」の通則や語の拍数の多寡の観点から考察する。また、C については日本人と留学生の「送り仮名の付け方」に関する知識や語彙知識の観点から考察する。一方、井上 (2003) において該当語がなかった D については、今回出現した誤答の分析から留学生の一部に「送り仮名は語末の 1 文字を送る」といった「簡略化」の特徴が見られることを示す。今後、さらに調査対象とする留学生の数を大きく増加させ、特徴としての簡略化を実証したいと考えている。

(高知県立大学)

## 「日本語学習者訪日研修」で得られるもの

— 「中央アジア 5 カ国」の日本語研修を例として—

岩澤和宏

(2016. 11. 5)

国際交流基金関西国際センター（以下、「関西センター」）では、外交官や研究者などを対象とした「専門日本語研修」と並んで「日本語学習者訪日研修」を実施している。「日本語学習者訪日研修」では海外の日本語学習者を日本に招聘し、日本の社会・文化を実際に見聞する機会を提供することにより日本語学習の継続を奨励している。

2015 年の総理大臣による中央アジア 5 カ国歴訪を受け、2016 年に同地域の日本語学習者 102 名を 2 グループに分けて日本に招聘し、2 週間の訪日研修を実施した。

関西センターの日本語学習者訪日研修では、日本語学習だけを研修の目標としているのではない。日本での体験交流活動を研修の中心に置いて、「①日本語への理解を深める②日本の社会・文化への理解を深める③日本語学習に対する意欲を高める」ことを研修目標としている。日本語学習と並んで日本文化体験やホームビジット、研修旅行などをプログラムに組み込み、社会・文化理解に加えて日本語運用力が身に付くよう配慮している。

中央アジアでは他のアジアの地域ほど日本語学習者の数は多くないが、母語と日本語との類似性や言語学習に対する積極的な姿勢もあって比較的高いレベルの日本語を習得している学習者が多い。ただ、日本語学習が進んでいる割には母国での日本語運用場面が限られていて日本事情に詳しくなく、そのことが日本滞在中の新鮮な驚きに繋がった。

また、研修期間中に日本語学習者間でネットワークも生まれた。研修の直接の目標ではないが、学習者同士の横の繋がりは今後の学習にとっても大きなプラスとなる。

発表では、日本語教育と異文化理解の視点から本研修の実践を報告し、研修の成果と課題について考察する。異文化理解を伴って得られた成果は、本研修以外の日本語研修や交流活動等にも応用できるものであると思われる。

(国際交流基金関西国際センター)

## 混住寮における異文化交流の現状と課題に関する事例研究

甲藤 瞳  
(2016. 11. 5)

近年、大学において留学生と日本人学生が混住する寮（以下、混住寮）を活用した国際交流の試みが広がっている。本発表は、混住寮に関して、大学寮の担当職員および寮生に聞き取り調査を行い、寮生の異文化交流の現状の把握および課題の検討を行ったものである。

調査対象寮は、筆者の所属大学の混住寮のうち、H寮、S寮、K寮とする。調査対象者は、大学寮の担当職員 1 名および寮生 18 名（H寮 6 名・S寮 7 名・K寮 5 名、うち留学生 10 名・日本人学生 8 名）の計 19 名である。聞き取り調査は、混住寮に関するもので、寮担当者には運営方針について、また寮生には寮行事や日常生活での寮生間の関わりについて聞き、個別に行った。

これらの対象寮は、施設設備や、寮生自治会の有無、寮行事の開催頻度などの点でそれぞれ異なる特徴を持っている。先行研究において、山川（2013）は、ルール・空間・時間の共有といった「寮のシステムの環境」が留学生と日本人学生の友人関係構築に影響することを明らかにしている。上述の対象寮の特徴も「寮のシステムの環境」の一部と考えられるため、この点に注目し、聞き取り調査の分析を行った。その結果、（1）共有スペースのアクセスのしやすさ、（2）寮行事以外で寮生が出会う機会の有無、（3）寮行事などの情報が留学生に支障なく届いているか、といった点が国際交流の多寡に影響する主な要因として考察された。これらの要因は、ルール・空間・時間の共有が進んでいるかどうかに関係していると考えられる。本発表では、異なる個性を持つ対象寮の特徴を概観した後、聞き取り調査の分析結果から、混住寮を国際交流の場として実質的に機能させる可能性について議論したい。

(神戸大学大学院生)



## イタリア語母語話者に対する作文授業の実践報告

—事前指導とフィードバックに焦点を当てて—

吉本秋水  
(2016. 11. 5)

本報告は高知県立大学文化学部における 2016 年度ヴェネツィア カ・フォスカリ大学留学生日本語プログラム内の「作文」(全 10 回) の実践報告である。本プログラムは毎年 4 月から 6 月中旬にかけて実施されており、本発表者は 2015 年度から作文授業を担当している。4 月時点での留学生 10 名の日本語レベルは N 3 レベルに相当する。

本報告では、学生の作文の実例を紹介するとともに、作文作成の事前指導と授業時間内でのフィードバックの 2 段階に焦点を当てる。事前指導の目的は、作文に書く内容を明確化することと、作文作成時の間違いを予め排除することである。この段階では、作文のテーマに関してグループ内での話し合いや、ワークシートの記入によるアウトラインの作成などを行った。また、授業内で一度作文を完成させた後、学生同士で互いに作文を添削する活動も行った。一方、フィードバックの目的は、他者の作文の問題点を自分にも起こりうる問題として意識することにある。この段階では、添削した作文を学生に返却する前に、学生の作文から問題のある文を何点か提示し、クラス全員で訂正方法を話し合うという方法を取った。添削時に意味が理解できなかった文章も、作成した学生本人に口頭で説明してもらい、他の学生から助言も得ることで学生が本来意図した文章を表現するに至った。

最後に、10 回の授業を通じて留学生が書いた作文の比較、加えて、作文を点数評価する方法についても言及し、今回の作文授業の成果と課題について検討する。発表当日は、本授業に対する問題点の指摘や、他の作文授業の取り組みについてもご教示願いたい。

(高知県立大学)

以上